

三人の暮らし

コップが倒れて水溜りになった夏から
一年経てど暮らせど
わたしたちの生活がすっかりとじていたことはない
あの時テーブルの水を拭く君の
皺皺の手が去年と同じくひんまがつてるから
ずっとつづいているような気持ち
会えないのは夜くらいです

S字のようにくねくねしている午後で
君は台所でカタカタなにかをしてる
わたしはそれを知らんふりして
爪をピンクに塗った
初めてメルカリで買ったそれで

もう一人は無愛想にS字フックにせんとくものをかけ
鄙びたわたしの下着なんかをいつまでもきれいにのぼしている
わたしは台所の君がつくったものと
彼女がきれいにのぼしたSサイズの下着をうけとめる

わたしの爪は綺麗

それはわたしだけのゆるやかな時間の残骸
ピンクのそれは来年もおなじく綺麗だ
何度剥がれ落ちたそのあとにも
終わらない生活にある希望のように